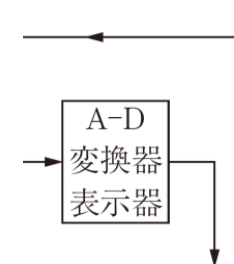
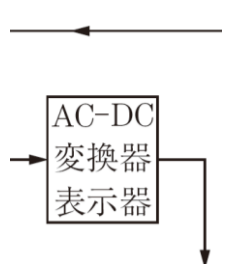
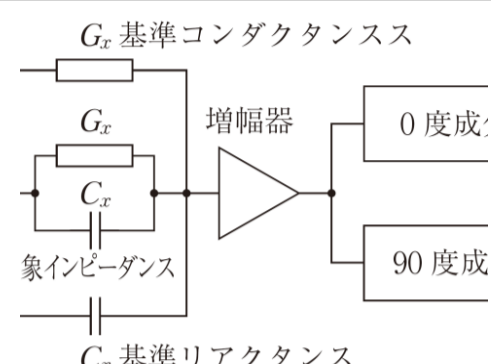
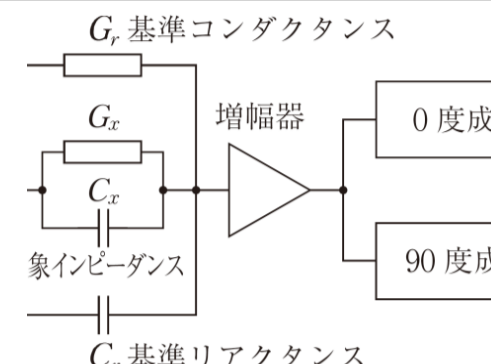






「デジタル時代の電気電子計測基礎」正誤表

頁	行・図	誤	正
9	上から13行目	MSK単位系	MKS単位系
13	上から3行目	電力の単位は $W=J/s$ であり、	電力の単位 W は J/s であり、
	上から5行目	電荷の単位は $C=s\cdot A$ であり、力の単位は $N=m\cdot kg\cdot s^{-2}$ である。	電荷の単位 C は $s\cdot A$ であり、力の単位 N は $m\cdot kg\cdot s^{-2}$ である。
20	例題 2.3 問(h)	$\frac{10\pm 2}{2\pm 1}$	$\frac{100\pm 2}{20\pm 1}$
	例題 2.3 解答(h)	$\frac{10\pm 20\%}{2\pm 50\%} = 5\pm 70\%$	$\frac{100\pm 2\%}{20\pm 5\%} = 5\pm 7\%$
21	上から5行目	$V+\Delta V=(X+\Delta X)(Y+\Delta Y)(Z+\Delta Z)$	$V+\Delta V=(X+\Delta X)(Y+\Delta Y)(Z+\Delta Z)$
	上から7行目	$\Delta V=YZ\Delta X+XZ\Delta Y+XY\Delta Z$	$\Delta V=YZ\Delta X+XZ\Delta Y+XY\Delta Z$
27	上から10行目	一級	1.0級
29	表2.2 y/V列4行目	5.5	5.50
32	上から5行目	雑音は電力として表現され、単位にはデシベルが用いられる。	雑音の大きさは電力として表現することが多く、雑音電力の比を表す単位にはデシベルが用いられる。
39	上から5行目	GND端子	GND端子電位
40	上から1行目	フェライトビース	フェライトビーズ
43	上から2行目	入力電圧 $10\mu V$	入力電圧 $0.1mV$
	上から3行目	出力電圧 $10V$	出力電力 $10W$
	上から4行目	$500dBm$ の電力を mW で表せ。	$500mW$ の電力を dBm で表せ。
44	図4.1の図説	図記号と入出力特性	図記号(電源記号は省略されることもある)と入出力特性
50	下から5行目	熱電対などの温度センサやシリアル通信の信号は	熱電対, ホール素子, 圧力センサや高速シリアル通信信号は
56	上から1行目	信号をフーリエ変換した図	信号をフーリエ変換によりパワースペクトルにした図
57	下から2行目	$R=1\text{ MHz}$	$R=1M\Omega$
80	図7.2		
81	図7.4		
	下から6行目	していないが、	していないが、
83	式 (8.1)	$P(\lambda) = hv = \frac{hc}{\lambda}$	$E(\lambda) = n_p(\lambda)hv = n_p(\lambda)\frac{hc}{\lambda}$
	下から9行目	ν は光の振動数である。	ν は光の振動数, $n_p(\lambda)$ は波長 λ の光子数である。
84	下から1行目	この値は光のエネルギー $P(\lambda)$ に比例する。	この値は光の1秒当りの入射エネルギー E に比例する($I_{sc} = KE$)。
85	式 (8.3)	$s(\lambda) = \frac{I_{sc}}{P(\lambda)}$	$s(\lambda) = \frac{I_p(\lambda)}{P(\lambda)}$
	上から11行目	ここで、式 (8.2) を式 (8.3) に代入すると、 $hc/q = 1.26 \times 10^{-6} W \cdot m/A$ であるから	ここで、 $P(\lambda)$ は1秒当りの光エネルギーで単位は W である。すべての光子が光電流に寄与するとき、 $hc/q = 1.24 \times 10^{-6} W \cdot m/A$ であるから
	式 (8.4)	$s_1(\lambda) = \frac{\lambda}{1.26 \times 10^{-6}}$	$s_1(\lambda) = \frac{\lambda}{1.24 \times 10^{-6}}$
	下から7行目	光子の数を n_p , 電子の数を n_e とすると	光子の数を $n_p(\lambda)$, 電子の数を $n_e(\lambda)$ とすると
	式 (8.5)	$\eta = \frac{n_e}{n_p} = \frac{I_{sc}}{q} \frac{hv}{P(\lambda)}$	$\eta(\lambda) = \frac{n_e(\lambda)}{n_p(\lambda)} = \frac{I_p(\lambda)}{q} \frac{hv}{P(\lambda)}$
87	下から5行目	光電効果によって	光電効果によって

92	上から1行目	撮像素子状	撮像素子上
95	図9.2中		
96	上から6行目	R_3 と R_4 の影響	R_1 と R_2 の影響
99	図9.10中		
	上から3行目	可変可能な	可変の
	下から3行目	利得と位相の特性	インピーダンス絶対値と位相の特性
105	下から3行目	現象する出力	減少する出力
106	上から1行目	PTCは、ある温度を境にして数°Cで桁違いに抵抗が増大する特性を持ち、	PTCは、NTCサーミスタとは逆に温度に対して抵抗が増大するサーミスタであり、この中である温度を境にして数°Cで桁違いに抵抗が増大する特性のものは
113	式 (11.4) 中	$V_1^2 + V_2^2 + 2V_1V_2 \cos \varphi$	$V_1^2 + V_2^2 + 2V_1V_2 \cos \varphi$
120	上から5行目	周期を数えて919263177回	周期を数えて9192631770回
121	式 (12.2)	$\sigma_y^2 = \frac{1}{2(n-1)} \sum_{i=1}^{n-1} (\overline{y_{i+1}} - \overline{y_i})^2$	$\sigma_y^2 = \frac{1}{2(n-1)} \sum_{i=1}^{n-1} (\overline{y_{i+1}} - \overline{y_i})^2$
	下から2行目	安定性	経年変化による周波数変化
122	下から3行目	水晶を電気素子に置き換えて	水晶振動子の電的インピーダンスの
123	図12.6中		
129	上から7行目	印加させる。	印加する。
130	上から6行目	横軸の感度time/div	横軸の掃印時間time/div
131	下から3行目	低域特性や高域特性	低域減衰特性や高域減衰特性
	上から5行目	周波数差	周波数比
136	図13.12中	移相 	位相差 
	図13.12の図説	オシロスコープ	2信号
141	上から6行目	エンコード・出コード処理	エンコード・デコード処理
145	解答 [1.6]	単位は $m^2 \cdot kg \cdot s^{-2} \cdot A^{-2}$ 、次元は $\dim \epsilon_0 = L^2 M T^{-2} I^{-2}$	単位は $m \cdot kg \cdot s^{-2} \cdot A^{-2}$ 、次元は $\dim \epsilon_0 = L M T^{-2} I^{-2}$
	解答 [1.7]	同上	単位長さ当りの力 F であるから $m \cdot kg \cdot s^{-2} \cdot m^{-1} \cdot m \cdot A^{-2}$
146	解答 [2.8] 1行目	8.1V	7.1V
	解答 [2.8] 2行目	8.1V±0.5V	7.1V±0.5V
147	解答 [3.3]	27dB	27dBm

